

# 第5回日韓知事会議等の概要

平成27年1月29日（木）～31日（土）

全国知事会



第5回日韓知事会議等の概要  
平成27年1月29日（木）～31日（土）

I	第5回日韓知事会議の概要	1
II	都内視察の概要	36
参考資料1	日韓知事会議共同発表文	37
参考資料2	全国知事会代表団滞在日程	38

## I 第5回日韓知事会議の概要

日時：平成27年1月30日（木）15：00～17：30

場所：都道府県会館3階 全国知事会会議室

出席者：

（日本側）山田啓二 全国知事会会長 京都府知事

平井伸治 全国知事会副会長 鳥取県知事

阿部守一 長野県知事

荒井正吾 奈良県知事

溝口善兵衛 島根県知事

前田信弘 東京都副知事

山崎康夫 埼玉県副知事

橋本光男 全国知事会事務総長

（韓国側）李始鍾 全国市道知事協議会会長 忠清北道知事

金起炫 全国市道知事協議会副会長 蔚山広域市長

李洛淵 全国市道知事協議会副会長 全羅南道知事

劉正福 仁川広域市長

李春熙 世宗特別自治市長

元喜龍 済州特別自治道知事

朴成煥 全国市道知事協議会事務総長

## 【日韓知事会議両国会長挨拶】

○山田啓二京都府知事（会長）

李始鍾忠清北道知事を団長とする大韓民国全国市道知事協議会の代表の皆様、本当によろしくお会いいただきました。全国知事会を代表して心から歓迎を申し上げます。

今年は、日韓の国交正常化50周年という記念すべき年であります。その記念すべき年に、こうして韓国の地方公共団体の代表である皆様をお迎えして、第5回の日韓知事会議を開催できることを本当にうれしく思っているところであります。改めて、今回の会議の開催に当たりまして、さまざまなご尽力をいただきました関係の皆様に対して、心からお礼を申し上げたいと思っております。

1965年の国交正常化から日韓両国には本当にいろいろなことがありましたけれども、まさに日本にとって一番近い隣国である韓国との関係は、確固たるものになっていると思っております。特に、昨年は韓国から日本に来られる方が270万人を突破し、過去最多になり、まさに500万人を超える人々が日本と韓国の間を往来しているということでありまして、この関係の深さを私たちは大切にしていかなければなりません。また、貿易の面、投資の面など、さまざまな分野につきましても、今、本当に日韓が手を携えて、これからの時代を切り抜けるために頑張っていかなければならないと感じているところであります。

そうした中で、大韓民国全国市道知事協議会と私ども全国知事会との交流は、1999年に初めて第1回の会議を開催しましてから、今日まで積み重ねてまいりました。私も前回の会議のときに韓国を訪問しまして、そこで日本の地方分権の現状を基調講演させていただきましたとともに、時の李明博大統領にも表敬訪問をさせていただいたことを今も鮮明に覚えているところであります。

今、日本と韓国の間には、さまざまな課題があるということは、今日ご参加の皆様はご承知のとおりだと思っております。ただ、いろいろな課題を乗り越えていくために、私は一番大切なことは、人と人との信頼関係であると思っております。お互いが顔の見える関係、そしてお互いの忌憚のない意見を言い合う関係、その中で初めて前に進むことができるのではないかと思います。今や、日本と韓国の姉妹都市提携数は156件と本当に大きな数になっております。日韓の地方公共団体は、両国民の顔と顔の見える草の根の関係を築き、まさに日本と韓国の信頼の土台になっていると思っております。今日は、そうした点で、この日韓の地方政府の会議が両国の信頼関係をさらに強化し、これからの日韓関係を明るい未来へ導くものとなりますことを心から期待申し上げます。そして、そのために本当に忌憚のない意見交換になりますことを願ひまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願い申し上げます。

○李始鍾忠清北道知事（会長）

尊敬する全国知事会の山田啓二会長、そして各都道府県の知事の皆様、こんにちは。韓国市道知事協議会の会長、李始鍾と申します。このように皆さんにお会いすることができて大変うれしく思います。日韓国交正常化50周年に当たる節目の年に、この知事会議が開かれたことは非常に有意義なものがあると思います。また、しばらく開催できなかつた、つまり7年間開催されずにいたこの会議が7年ぶりに開催することができて、非常に意味があると考えております。

日韓両国は、これまで5回会議を開催するに至りました。両国の発展においても大きな貢献をする道になっていると思います。21世紀は、国より地方がより高い競争力を持つと考えております。また、地方のさまざまな変化が求められております。このような時期に日韓知事会議は、両国における協力関係において新しいパラダイムを提供するものになると考えております。これまで日韓知事会議は、両国間のコミュニケーションという非常に重要な橋渡しとしての役割を果たしてまいりました。今後も日韓知事会議が両国間におけるさまざまな問題、冷え込んだ気持ちが解け、また、間違っているものがあればそれを正す、そういった会議に発展すべきだと考えております。そのために、より生産的で協力できる関係を結ぶ必要があると思いますし、そのためのきっかけになることを願っております。本日、両国の皆様の発展的で未来志向のご意見を期待しております。今日の会議をきっかけにして、両国の地方自治団体が友情と信頼をもとに、ともに発展できる、そういった時間になることを願ってやみません。ありがとうございます。

## 【日韓知事会議発言概要】

### ○山田啓二京都府知事（会長）

それでは、私と李始鍾会長の2人で議長を務めさせていただきます。まず最初に日本側からお話をさせていただくことをお許しいただきたいと思います。会議の進行につきましてのご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、次第に従いまして議事を進めたいと存じます。

本日は、3つ議題を用意しておりまして、経済、観光、文化ということでありますけれども、まず、地域間の経済交流につきまして、日韓の出席者に交互に意見を述べていただきます。

まず、日本側から、長野県知事にご発言をお願いいたします。

### ○阿部守一長野県知事

長野県知事の阿部守一でございます。私のほうから、まず、地域経済交流について口火を切らせていただきたいと思います。

長野県、地理的に、後ほど出てきますけれども、日本のほぼ中央部に位置しております。人口、約210万人、面積が1万3,500平方キロということで、日本の都道府県の中でも比較的面積が大きい県であります。これまで私ども長野県、今日ご参加されているほかの県に比べますと、比較的韓国の皆様方との交流が弱い部分があったというふうに思っておりますが、日韓国交正常化50周年ということもあり、これまで以上に韓国の皆様方との交流促進に努めていきたいというふうに思っております。

そういう観点で、今日は経済面で3つご提案をさせていただきたいと思います。

ご覧いただいております3つでございます。まず、諏訪圏工業メッセ、国内の地方レベルでは最大級の工業メッセであります。これへのご出展をぜひご検討いただきたい。それから長野県、製造業を中心として活性化している地域でありますけれども、長野県への投資をぜひ行っていただくようご検討いただきたい。それから3点目、長野県、冬季オリンピックを開催した地です。平昌オリンピックを控えている韓国でございますけれども、このオリンピックの開催をご縁に新しい交流事業を進めていきたいと思っております。

まず、1番目の諏訪圏工業メッセであります。

長野県内の企業、現在、韓国に39事業所が進出をしております。韓国向けの輸出額、およそ400億円ほどということで、主として韓国の企業に部品等の供給をしております。この諏訪圏工業メッセ、日本の地方で開催されます工業専門の見本市としては最大級のものであります。昨年10月には11カ国から357社が集まっております。ことしは10月の15日から17日にかけて開催をする予定でございます。このメッセ、しっかりとした成果を残していこうということで、コーディネーターを配置して事前のマッチング等を行っております。毎年、約1,500件ほどの商談が具体的に成立をしているメッセでございます。また、MOUにつきましても、2011年にはフランス、13年にはインドネシア、そして14年にはタイとの間で締結をしているところでございます。

世界各国からもご出展いただいております。2014年、日本を含めて11カ国に参加をいただいております。海外からご招待した地域にはブースを無償で提供をさせていただいております。会場の様子でございます。ぜひこの諏訪での工業メッセ、韓国企業あるいは地域の皆様からのご出展をお待ちしております。

それから、2点目であります。長野県への投資を歓迎しますということで、現在、長野県では、ものづくり産業応援助成金制度という制度を運用しております。投資額、そして雇用で一定の条件を満たした場合には最大10億円助成金を交付させていただきます。また、企業立地促進法に基づきまして、不動産取得税、固定資産税につきまして課税免除となる制度もございます。長野県、ものづくり産業で発展をしてきた地域でございます。県内にご進出いただく事業者の皆様方をサポートするために、充実した研究開発支援を行う工業技術センターを設置をしております。材料技術、環境、情報技術等におきまして企業の皆様方のお役に十分立つことができるというふうに考えています。

冒頭申し上げました長野県の地理であります。日本のほぼ中央に位置しております。新幹線に東京駅から乗っていただきますと、約1時間で長野県の東の玄関口の軽井沢に到着をいたします。また、中京方面、そしてこの3月には新幹線が金沢まで延伸しますので、東京、名古屋、そして日本海側の新潟、北陸とも非常に交通的には便利な場所でございます。

最後、3点目ですが、冬季オリンピック、私ども長野県は、1998年に冬季オリンピックを開催いたしました。写真の左下は、長野オリンピックのショートトラックで金メダルをとられた韓国の金東聖さんでございます。この写真は、冬季オリンピックの際、建設いたしました白馬村のジャンプ台、そして長野市のスピードスケート会場、エムウェーブでございます。2018年、平昌オリンピックの成功を私ども心から祈念をしております。そしてこの冬季オリンピックの開催をご縁に、例えば事前のキャンプでありますとか、さまざまなスキー、スケート等での交流、ぜひ隣人として顔の見える交流を行わせていただければというふうに思っております。

最後、これは、2014年、外国人の皆様方のロコミのサイトの中で、日本の都市として7番目に人気があるとされた松本市にあります国宝松本城でございます。長野県、伝統や文化、そして自然環境、さらには、温泉やスキー場とさまざまな観光資源がございます。韓国の皆様方と心の通う交流をぜひ進めていきたいというふうに思っております。ぜひ私どもからの3点のご提案、ご検討いただければと思います。以上でございます。

#### ○李始鍾忠清北道知事（会長）

長野県の阿部守一知事様のほうからご発言をいただきました。

それでは、続きまして、私のほうから司会を務めさせていただきます。

長野県の阿部守一知事に感謝を申し上げまして、続きまして、蔚山の金起炫市長のほうからご発言をお願いいたします。よろしく申し上げます。



○金起炫蔚山広域市長（副会長）

尊敬する山田啓二会長、また、李始鍾会長、そして日韓両国の市道知事の皆様、お会いできてうれしく思います。大韓民国・蔚山広域市長の金起炫と申します。

蔚山は、韓国の東南部にある都市で、人口は115万人です。GDPは1人当たり5万5,000ドルに上っています。韓国最大の生産都市と言えます。何よりも日本とは一番近い距離にある都市と言えます。日韓国交正常化50周年という節目の年に、両国の市道知事が再び一堂に会し協議をする機会を得ることができて大変うれしく存じます。このような努力が実を結び、両国がより近くなり、共存共栄の道を進み、日々発展することを期待しております。

先週、朝日新聞の報道によりますと、2014年、日本を訪れた外国人観光客が1,341万人だったということです。2013年には1位をとっていた韓国は、今は中国や台湾の観光客の急増により昨年は2位にとどまったということです。しかしながら、1位よりわずか7万人少ない数字でした。その数字というのは275万5,300人だったということです。同じ期間、ほぼ同数の日本人が韓国を訪れています。毎年、約500万人を超える人々が玄界灘を渡っている、つまり非常に緊密な両国関係が続いております。人の交流だけではありません。国交正常化から50年、物の貿易は431倍となり、日本は韓国にとって2番目に大きい投資国でもあります。ご存じのとおり、両国は根強い交流の歴史を持っています。大きな木には傷がつきものであるように、歴史にも光と影は常に存在してきました。しかしながら、両国の国民は常に影ではなく光に注目をしながら希望を生み出してきました。その明らかな事実を思い浮かべながら、私は両国の国民が守ってきた交流と協力の道をより広げていきたいと考えております。

蔚山には、400年前に熊本城の加藤清正が朝鮮軍と激しい戦闘を繰り広げた2つの城があります。また、熊本市には新町という町がありますが、正式な名称は、今は新町ですけれども、昔は蔚山町だったということです。蔚山出身の人が当時そちらに居住をしながらつくられた地名だということです。このように、都市のあちらこちらに不幸な過去の傷が残っています。しかしながら、蔚山では、そのような影をよけたり、目をそむけたりせずに、影に真っ向から向かい合い、友好的な善人関係を目指す未来を準備してきました。その歴史を受け継ぎ、蔚山では400年ぶりに熊本市と手を携え、友好協力都市協定を締結しました。共存、協力の新時代を切り開くために取り組んでおります。

尊敬する日韓市道知事の皆様、歴史からの教訓は、ただ与えられるものではありません。我々が歴史から何かを学ぼうとするとき、初めて歴史から教訓というものを得ることができます。我々が何を学ぶかは我々の選択にかかっています。影の過去を光の未来に変えられるかどうかは、我々の選択にかかっています。最近、両国の関係は非常に残念なものがあります。本日話したいことはたくさんありますけれども、本日はそのテーマを主題にしているわけではありませんので、控えさせていただきます。1つ申し上げたいのは、人類の普遍の倫理基準、世界の人たちが共有する歴史認識の基準を尊重すれば、すぐ解決できる問題だと考えております。多くの人たちが日韓を交流しながら、行き来しながら新しい時代を切り開いていくことを希望しております。すぐできることは経済的な交流、また、ほかにもさまざまな交流があるかと思います。まず、で

きることから実行していきたいと考えております。

日本は、韓国への投資、特に蔚山への投資も積極的に行われています。その投資国として、2位が日本ですけれども、外国人投資額の20%に当たる35社、12億USドルが日本から投資されています。特に2012年以降は大規模な安定的な立地条件を誇る蔚山石油化学団地への新設、常設投資が行われています。JXエネルギー、旭化成、帝人などの会社が代表的な会社になります。全国最大規模の蔚山石油化学団地には、株式会社S-OIL、ロッテケミカル、錦湖石綿、大韓油化など韓国屈指の企業が活発的な経営活動を行っております。また、さまざまな合作、投資のビジョンチャンスをつくっています。韓国最大規模の石油化学団地内には、さまざまな合作、投資のチャンスが発生する見通しです。つまり石油化学産業の高度化、また、従来の工場をリモデリング化したり、あるいは遊休地を活用するなどの新設、増設のニーズが引き続き発生しているからです。ですので、蔚山においてはさまざまな投資のチャンスが存在しています。ですので、両国の市道からその投資を積極的に行っていただくようお願い申し上げます。

日本のことわざには、石の上にも三年というものがあります。粘り強く努力していけば実を結ぶということです。相互理解と協力の幅を深めるための努力を続けることで日韓関係の新時代が開かれることを望んでやみません。この会議が希望に満ちた50年、100年に向けた第一歩になることを期待し、また、蔚山が進めている技術の融合、複合、新成長産業、未来エネルギー産業などの創造都市の構築にも多くのご関心とご協力をお願い申し上げます。日韓両国の関係の発展とますますの繁栄を祈念申し上げ、私の発表とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○山田啓二京都府知事（会長）

蔚山広域市長、大変示唆に富んだプレゼンテーションをありがとうございました。

それでは、日本側からは鳥取県知事にご発言をお願いいたします。

○平井伸治鳥取県知事（副会長）

尊敬する李始鍾知事様、金起炫市長、李洛淵知事、劉正福市長、李春熙市長、元喜龍知事様、私は平井と申します。鳥取県知事をしております。よろしく願いいたします。両国の日韓の交流のために努力をしたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。先ほどおっしゃったように、お互いに努力をしながら進めていくということだろうと思います。

さて、鳥取県でありますけれども、あそこにちょっと写真がございます。鳥取県は、今、江原道と友好交流をさせていただいております。崔文洵知事と一緒にさまざまな事業をやっております。例えばこの写真は、福祉におきまして障害者の芸術交流をやろうと、そういうことをしたときの写真でございます。そのときに、鳥取県が進めておりますあいサポート運動、今は長野県、奈良県、島根県も入っておられますが、それが韓国のほうにも広がりました。これは今、埼玉県の一部でもされている運動です。こういうように国境を越えて私たちは連帯をすることができません。特に青少年の未来を考えると、手をつなぐことをきちんと考えるのが我々世代の責任ではな

いかと思います。

今も過去のいろいろな話がございましたけれども、こういうものが鳥取県の遺跡から出てきます。左のほうをごらんいただきたいと思います。これは「佐波理匙（さはりさじ）」と呼んでおりますけれども、出たもの、これを前、韓国から来られた金振旻知事がおっしゃったんですが、これはまさに韓国の焼き肉屋のスプーンだと、それと同じものが、これは随分昔の遺跡から出てきています。また、ここに文章で書いてございますけれども、鳥取県にはオンドルの遺跡も県中部の倉吉市で出土しています。これは李洛淵知事の地元の羅州市と国際交流、姉妹提携をしている倉吉市での出土品なんですけれども、そういうものも出ています。ですから古くから考えますと、私たちは一つの文化圏であり、海を越えて船で渡ってきたわけです。金起炫市長の蔚山は島根県や鳥取県のすぐ海を挟んだ向かい側でございまして、人の行き来は古代からあったわけです。現代の我々がこれを越えられないわけがない、そういうような信念を持って地域間交流を語るべきではないかと考えます。

これが今、鳥取県の行っています国際交流の状況でありますけれども、江原道を初めとしまして各地と姉妹交流を進めておりまして、その提携の数は日本で一番多いのが鳥取県です。そして国際交流員と言われます韓国人の方の通訳だとか交流のサポートをする職員は鳥取県庁だけで5名、さらに都市には3名、合計8名いまして、この数も全国では一番多いというふうに言われています。下のほうに若干の交流の例がございまして、スポーツ交流でありますとか羅州市と倉吉市との間の梨産業の振興の交流でありますとか、さらに、ウォーキングの交流など、さまざまなものがあります。最近では、済州オルレの皆さんと一緒にしましてそういうトレッキングの大会をやるということで、旗をいただいたりいたしましたところでございます。

これを越えていくためには、海を越えて私たちがつながっていくためには、交通が決定的に大事であります。鳥取県は今アジア航空の便によりまして米子とソウルが結ばれているところでございます。さらに、海を渡る航路でありますけれども、境港という鳥取県の港から江原道の東海、さらに琿春、沿海地方のウラジオストク、これが結ばれる航路がございまして、この航路が毎週定期的に動いているのは奇跡的なくらいであると言われておりますが、こういう航路を開くことによりまして人の流れや物の流れが定常的に起こるようになってきました。このようなルートをつくったり、活用したり、これを対岸にあります韓日両国の地域でやっていかなければならないと思います。

江原道との友好交流、右上は先ほどのものでございますけれども、こういうように、障害者の交流や芸術の交流、マラソンなどをさせていただいておりまして、厚みを持った交流が成熟してきているところでございます。実は、今もいろいろお話がありましたように、鳥取県もなかなか交流が難しい時代がありましたけれども、私が就任をした8年前に江原道との交流を当時の金振旻知事との間で復活をさせました。それで、両地域の交流のモデルになろうという努力をしてきたところであります。その努力の果ての延長線上にありますのは、グレーター・トモン・イニシアチブと言われます。これは、UNDP、国連開発計画の一環の事業でございまして、ロシア、中国、モンゴルと、それから韓国、北朝鮮もその関連地域になるかもしれませんが、日本と

こういうところを結びながら物流のルート、ロジスティクスをつくっていかうということになります。その動きの中に私ども鳥取県も加入をさせていただき、関係地域と話し合いをしておりますし、ここにある写真は江原道の江陵市、平昌オリンピックでスケート会場になるところだと思いますが、その江陵市における都市博覧会に我々が出展したときの様子でございます。衣料産業あるいは食品、さまざまな貿易はあり得るわけでありまして、先ほどの海を越えて東海と境港を結ぶ航路では、日本のほうにパプリカを輸入しています。韓国で生産された美しい安全でおいしいあのパプリカが輸入されてきました。その第1便が来たときは、実はミスコリアの皆さんの一行と一緒に乗ってきました。美しい女性が、予選段階であったんで20人ぐらい乗ってきたんですね。パプリカは輸入したんですが、美女たちはすぐに帰ってしまいまして、韓国のほうに帰られました。それはともかくといたしまして、そんなようにいろんなルートで貿易、経済間交流を進めなければなりません。

境港は、今、釜山との間に大体毎日のペースぐらい、週6日便ぐらい行き来がございます。それから先ほどの東海のルート、こういうところを通じましてさらに中国だとかロシアにつながっていくわけでありまして、今、東アジアが世界の経済の中心になります。このときに私たちの地域が力を合わせて、むしろ我々がイニシアチブをとって中国やロシア、さらにはモンゴル、そして東南アジア、世界というふうに我々のところがセンターになって広げていかなければならないと思います。現に貿易額はふえつつあります。これがグレーター・タモン・イニシアチブと言われますUNDP、国連開発計画の版図でございます。こういうようにルートをつくろうというふうに国連が協力をしながらやっているわけでありまして、鳥取県も地方の委員会に加入しているところでございます。韓国には、例えば右上にありますような千代むすびさんという酒屋さんが行ったり、また、ソウルの大学生のまちにカフェを出したり、さらにアンテナショップを今度は江原道が鳥取県内に新店をされたり、いろんな交流ができてきています。ただ、まだまだ規模のロットは小さいです。いろんな意味でこの交流の幅を広げていく必要があるのではないかというふうに考えているところでございます。「ソンパダット マジュチェヤ ソリガ ナンダ」、2つの手が合わさってこそ初めて音が出ると、これが一つの真理ではないかと思っております。ぜひ今日の機会に両国の関係が発展することを願っております。カムサトゥリムニダ。

#### ○李始鍾忠清北道知事（会長）

鳥取県、平井知事のほうからお話ございました。とても韓国語がお上手でしたね。私ども韓国市道知事協議会のときに正式メンバーでお招きしようかというような、そういった冗談がありました。積極的に一度検討してみたいと思います。私ども市道知事協議会にぜひいらっしゃってください。どうもありがとうございました。

続きまして、それでは、韓国の李春熙世宗特別市の市長のほうからご発言をお願いします。

#### ○李春熙世宗特別自治市長

山田啓二会長を初めとする代表団の皆様にお会いできて、大変うれしく思います。橋本光男事

務総長さん、本当にご準備のために大変だったと思います。私は、2012年、大韓民国の新たな広域自治団体としてスタートしました世宗特別自治市長としてこの会議に初めて参加できることを大変光栄に存じます。今回5回を迎える日韓知事会議が続く中で、地方自治レベルの交流が両国の経済、韓国、文化交流により拡大することを願っております。まず、私は世宗特別自治市についてご紹介申し上げます。そして本日のテーマである地域間経済交流についてご提案をさしあげたいと思います。

私どもは、朝鮮半島の中心部に位置しています。2012年7月、大韓民国のバランスのとれた国土の発展と国家競争力の強化のためにスタートしました。面積460平方キロ、人口は16万人の小さな広域自治団体です。17の市道の中で一番最後にスタートした末っ子のところだというふうに考えてくださっていいです。私どもは、規模は小さいですが、もっと発展するところです。去年は国務総理を初めとして36の中央行政省庁の公務員1万3,000人、14の国家の政策研究機関が勤務しています。そして大韓民国で3分の2の行政に責任を持つ行政中心複合都市というふうに言えると思います。また、韓国で唯一、広域と基礎事務を同時に遂行する単層制の広域自治団体です。2兆ウォンを投資して国家予算と、そして政府投資機関の予算で運営しています。国家の均衡発展と地方分権をリードする国家戦略都市として建設されています。21世紀になって世界で初めて建設される新都市の私ども世宗市は、2030年まで人口80万人の行政首都となります。また、教育、文化、経済と環境がマッチした未来都市になると思います。皆様の多くの関心と声援をお願いします。

私は、日韓両国が共通に抱えている地域の問題についてお話を申し上げたいと思います。

韓国で世宗市を建設するのは、首都圏の集中した人口と産業を地方に分散させ、地域経済を活性化するという意味で大きな意義があると言えると思います。現在、新都市を建設していますが、世宗市の中にも9都市と、そして農村部があります。ですから都市と農村部が一つになった、そういった課題が提起されています。都市と農村がともに生きる、そして格差を縮める、そういったプロジェクトについてお話ししたいと思います。

私どもが行っているのが、ローカルフード運動です。世宗市は韓国の代表的な都市と農村の複合都市となっています。ですから都市と農村がともに生きる幸せな都市建設のために、世宗型ローカルフード運動というのを進めています。これは地産地消というレベルだけではなくて、消費者と生産者間の信頼と思いやりをベースにして新たな地域共同体をつくろうという、こういった運動です。このようなローカル運動の定着のために、去年「健康な市民、幸せな農民、ともに生きる世宗市」というビジョンを設定しました。そして行政において専門部署を設置しました。私は、日本では既にこのような運動が推進しているというふうに聞いております。大きな成果を上げているというふうに思います。1980年代から日本では地産地消運動がありました。全国的に1万7,000以上の産地直売所があるというふうに聞いています。そしてまた、学校では食育、学校給食が整っているというふうに聞いています。私は、日本のこのような経験と、そして成功事例が、私どもが進めているローカルフード運動の定着に大きな助けになるというふうに思っております。

一昨日、私は日本に来まして、地域の産業が活性化するためのさまざまな努力について聞くことができました。都市の活性化のためのさまざまなものがあるというふうに聞きました。私どもも新都市としてなっていますが、まだ旧都心地域について経済的に活性化させるためにさまざまな努力を進めていきたいというふうに思っています。そのためには都市の再開発などもしていきたいというふうに思います。このような都市と農村の複合地域、そのためにも日本の知事の皆様方からさまざまなご経験、そしてまた、人的、物的交流を含めたさまざまなアドバイスをいただきたいというふうに考えております。私どもは、3年目になりましたが、まだ日本と姉妹縁組など、そういったことができておりません。今後、私どもも日本との交流について前向きにしていきたいというふうに思っております。

2番目のお話です。今年、世宗市では第3回地方自治博覧会が開催されます。世宗市に韓国のみならず日本の自治体の皆様方も招待したいというふうに考えております。そして両国の共同関心事についてお話をしたいというふうにご提案したいと思います。この地方自治博覧会は、韓国政府、行政自治部と17の広域市道、そして226の基礎自治団体がベースとなって3日間開催されます。自治体が行う革新的な政策、そして成功事例について紹介します。そして特に市民の参加型モデルを提案します。私は、特に、韓国で地方自治が復活して20周年になりますが、このような意義深い年に世宗市が国際協力になればいいというふうに思っています。私どもは多くの自治体を招待し、ローカルフード運動や地域の再開発など共同体の連帯を強化し、地域経済を活性化したいというふうに思っています。日本の知事の皆様方、多くの関心とご参加をお願いしたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

#### ○山田啓二京都府知事（会長）

世宗特別自治市長、ありがとうございました。

日本では、今、地方創生ということが話題になっており、その中身として、1つは人口の減少、そしてもう一つは、東京の一極集中、過疎・過密の問題の是正、それから地域経済の再生ということが問題になっていますが、世宗特別自治市の取組みは、まさにソウルの一極集中を緩和するための新しい試みとして私どもも大変興味を持っておりますし、私自身も伺ったことがありますので、非常に意義深いお話をありがとうございました。

その次に発言されるのは少しやりにくいかもしれませんが、いよいよ2回目のオリンピックを控えた東京から今日は前田副知事が参加されておりますので、ご発言をお願いいたします。

#### ○前田信弘東京都副知事

大韓民国全国市道知事協議会の皆様、日本へ、東京へようこそいらっしゃいました。東京都副知事の前田信弘でございます。本日は、舛添東京都知事の出席がございません。私が代理で出席させていただいておりますので、よろしく申し上げます。

舛添都知事は、新年に当たり、「私たちの子や孫たちの世代にオリンピック・パラリンピックのプラスのレガシーを遺し、日本全体を元気にする。自由で平和な社会、基本的人権が尊重され

る社会を守り、日本を世界からさらに尊敬される国にしていく。新年を迎えた今、その誓いを新たにした。」と述べました。これは東京都の行政全体をカバーする知事の大きな考えであります。

では、具体論に入ります。

東京都は、昨年12月、目指すべき将来像「世界一の都市・東京」の実現に向けた10年間の具体的な工程表である「東京都長期ビジョン」を策定いたしました。そのビジョンでは、「史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」と、「課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現」、この2つの基本目標を定めております。都市外交の推進についてビジョンの政策指針の一つに位置づけており、これを具体化するための戦略として、東京都は「東京都都市外交基本戦略」を策定しております。この戦略は、今後の東京都の都市外交の基本的考え方と政策の方向性を示すものですが、この中で、都市と都市との教え、教えられる関係の構築が重要としております。既に舛添都知事は、昨年7月にソウル特別市、9月には本日ご出席の劉正福仁川広域市長様を訪問し、アジアの重要なパートナーとの関係を再構築してまいりました。本日は、この長期ビジョンで掲げている世界をリードするグローバル都市の実現に向けて、東京がどのように取り組むのか、主に経済活力の面からお話をしたいと思います。また、韓国の先進都市の取り組みについても学ばせていただきたいと存じます。

経済政策に関する東京都の目標は、日本経済の機関車役となっているこの東京の経済をさらに活性化させ、世界中から資本、人材、情報が集まる都市とし、経済をさらに活性化することによって東京を世界一の都市とし、日本の持続的成長を支えたいというものでございます。元気な東京にさらなる活力を生み出すためには、企業が活動しやすい環境を整えること、そしてビジネスチャンスはこの東京にあるという状況をつくり出すことが必要です。東京都は、ビジネスの面で東京を開かれた都市とするために3つのことを実現します。

まず1つ目は、日本国政府により大胆な規制、制度改革を実行するための突破口として位置づけられた国家戦略特区制度を活用し、国際的ビジネス拠点の整備を進めることとさせていただきます。例えば、図にありますように、都市再生・まちづくり分野では都市計画制度を柔軟に運用し、東京都心部の10地区で国際的ビジネス拠点プロジェクトをスピーディーに展開いたします。そのうち虎ノ門地区では、新駅の整備やバスターミナル、地下通路などの公共施設の整備を民間の力を生かして周辺開発と一体に進めてまいります。また、過去、新型インフルエンザが日本を襲った際に、都知事は当時、厚生労働大臣として対策の陣頭指揮をとった経験があり、創薬、薬をつくることの重要性を改めて認識しております。現在のエボラ出血熱の脅威に対して日本の製薬会社の治療薬が使用されているなど、日本の高い技術力が注目されております。この強みを生かし、東京を創薬を初めとしたライフサイエンスのビジネスの拠点へと成長させていきたいと考えております。

2つ目は、同様に特区制度を活用して、外国企業などがビジネスしやすい環境を整備いたします。東京都は、これまでも外国企業の誘致に積極的に取り組んできておりますが、今後は、例えば法人設立の申請手続きに係るワンストップ窓口の設置や書類の英語対応などにより手続きの迅速化、簡素化を実現いたします。また、外国人対応の医療施設やインターナショナルスクールなど

教育施設の整備を促進し、外国企業の従業員や、そのご家族が安心して暮らせる生活環境の充実を図ってまいります。

次は、3つ目ですが、東京をロンドンのシティ、ニューヨークのウォールストリートと肩を並べる国際金融センターとするというものでございます。そのための取り組みとして、「日本国内でのビジネスチャンスの創造」、「国内の個人金融資産を預金中心からその他金融商品による運用に広げる仕組みづくり」、そして「グローバル人材の育成」の3つを上げております。国と経済界からの強い賛同のもと関係者が一堂に会する推進会議を設置し、官民一体となって具体的取り組みを進めております。また、こうした東京の取り組みを発信して、国際的な金融会議も国や民間と協働して東京で開催していきたいと思っております。まさにオールジャパンで東京を魅力にあふれ、信頼される国際金融の中心にしていきたいと考えております。

さらに、舛添知事は、こうした経済の活性化を進めるとともに、大量なエネルギーを消費する大都市として、再生エネルギーの活用あるいは将来に向けた水素の活用、こうした取り組みについて積極的に行っております。都として、こうした取り組みを通じて、グローバル都市・東京の実現に全力を挙げてまいります。もちろん個々の局面では都市間の競争という部分も出てくると思っております。しかし、日本と韓国の経済関係は既に強いものがあり、この日韓を含めたアジアの発展ということになれば、お互いに利益があるものと考えます。今後とも都市と都市とが互いに知恵を出し合う関係をつくっていききたいと考えておりますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

#### ○山田啓二京都府知事（会長）

ありがとうございました。舛添知事も知事就任後すぐに韓国を訪問されて、まさにこれまで以上に日韓関係を重視して、これからの東京の国際化を図るために努力をされていることに心から敬意を表したいと思っております。

それでは、次のテーマに移らせていただきたいと思います。

次のテーマは、地域間の観光交流であり、これは先ほどからいろいろと数字が出ておりますけれども、大変大きなと申しますか、本当に両国にとって大切な交流ではないかと思っておりますが、長野県知事に、まずご発言をお願いいたします。

#### ○阿部守一長野県知事

それでは、私のほうから観光交流についてお話をしたいと思います。

長野県、日本の中でも有数の山岳観光県であります。そういう観点で、3つ、本日はご提案をさせていただきたいというふうに思っております。

1点目が教育旅行、2点目が登山、3番目がチャーター便の就航ということでございます。

両国間の関係、友好的な協力関係を一層深めていくためには、若い世代、子供たち、若者たちが交流を進めていくということが何よりも重要だというふうに考えております。長野県、世界から若者たちを招き入れて、長野県の美しい農山村で若者たち、子供たちを交流させようということ



で、国際青少年交流農村づくりというものを進めております。そうした中で、教育旅行の受け入れを積極的に進めてきております。ご覧いただいておりますように、2013年度、韓国を初め中国、台湾、シンガポールなどから約4,500名の子供たちを受け入れさせていただいております。昨年度、韓国からは城南市のチョンソル中学校、そして釜山外国語学校など、7団体、約250名の皆様方に韓国からお越しをいただいております。

先ほど申し上げましたように、長野県、美しい農山村が長野県の一つの特徴でございます。世界一の青少年交流農村づくりを目指して、2011年3月に国際青少年交流農村宣言を発表いたしました。2014年の12月まで、昨年のおしまいに約1万3,000人の子供たち、若者たちを世界から長野県の農村に受け入れさせていただいております。

長野県の特徴でございます。ちょっと写真が小さくて長野県の本来のよさがなかなか伝わりにくいわけですが、長野県、国の内外から年間約8,500万人が訪れます日本で有数の観光県でございます。長野県の特徴は、3,000メートル級の山々に囲まれた自然豊かな山岳高原観光県であるということにあります。四季の移り変わりが美しく、春は雪解けとともに可憐な花々が咲き乱れます。そして夏には高原に涼しい風が吹き、山々の雄大な景色をお楽しみいただけます。また、秋には木々が紅葉し、美しい色に染まり、冬には白銀の世界が広がります。そして1年を通じてお楽しみいただけるのが温泉でございます。長野県、200カ所を超えるさまざまな効能、そして風情あふれる温泉地がございます。美容や健康、心の癒しのため多くの方々を訪れる温泉天国であります。ちなみに、私ども長野県は日本の中でも、男性、女性とも最も長寿、平均寿命が一番長い県であります。世界の中でも最も長寿のエリアであります。また、長野県、80カ所を超えるスキー場がございます。冬季オリンピックのお話も先ほどさせていただきましたけれども、世界から大勢のスキーヤーをお迎えをさせていただいているところでございます。一昨年の日本政府・観光庁の統計によりますと、海外からの観光客数の伸びが全47都道府県の中で3番目に伸びたのが私ども長野県でありまして、今日も私ども長野県から出てまいりましたけれども、新幹線に乗りますと、今のシーズンですと乗客の半分以上が海外からのスキーのお客様というような状況でございます。

長野県、美しい山岳がございます。日本百名山という美しい山を集めた百名山がございますが、そのうちの29が長野県でございます。また、北アルプス、中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳等、世界中から大勢の登山者が訪れる県でございます。韓国の皆様方も最近では登山で訪れていただく方が大変多くなっておりまして、私ども大歓迎でございます。しかしながら、大変残念なことですが、一昨年、韓国からの登山者4名の方が中央アルプスで亡くなられるという事故が起きてしまいました。この要因、日本と韓国、ご覧いただいておりますのが登山の状況、ある意味で韓国の皆様方の常識と日本の常識が少し違っているということに起因をしていると思います。私ども山岳の安全対策ということに今取り組んでいるところでありまして、在外公館も通じて登山事情の違いということもお知らせをさせていただいているところでございます。山の安全対策、我々もしっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えておりますが、ぜひ韓国から登山にお越しいただく皆様方にも、長野県あるいは日本と韓国の登山事情の違いというものについても十

分ご理解いただいた上で、お越しをいただければありがたいというふうに考えております。

それから、国際チャーター便の就航についてでございます。長野県の真ん中、先ほど松本城の写真をご覧いただきましたけども、松本市に信州まつもと空港がございます。私ども国際チャーター便の就航について積極的に取り組んでいるところでございます。ご覧いただいておりますように、国際チャーター便の支援ということで、着陸料の全額免除等を行っておりますし、また、旅行を企画していただく旅行会社様にも補助を行わせていただいております。また、プログラムチャーター便につきましては、ここに書かれている以上の充実した支援を行ってまいりたいというふうに考えております。ぜひ、私ども韓国からまつもと空港経由で大勢の皆様方をお迎えいたしたいというふうに考えておりますので、ぜひこうした観点での国際チャーター便の就航についてご関心を持っていただければ、ぜひご協力をいただければというふうに思っております。

これが信州まつもと空港、日本の中で最も標高が高いところに位置している空港でありまして、ご覧いただいておりますように、3,000メートル級の山々、北アルプス等が眺めることができる大変美しい空港でございます。

そして次でございますが、長野県、1時間で新幹線でお越しいただけますが、現在、東京の銀座すずらん通りに銀座NAGANOということで、いわゆるアンテナショップを昨年オープンさせていただいております。長野県の魅力を発信する基地になっておりますので、ぜひ知事の皆様方、もしお時間があれば、銀座5丁目、すずらん通りでございますので、ご覧いただいて長野県の物産あるいは長野県の観光の一端をご覧いただければありがたいと思っております。

最後、世界的に人気なスノーモンキーでございます。地球上で唯一、野生の猿が天然の温泉に入るという場所でございます。今のシーズン、雪に囲まれた中で猿たちがのんびりと温泉に入る姿を世界中から多くの皆様方がご覧にお越しいただいております。長野県、韓国の皆様方との関係、交流づくり、これからしっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。また、知事の皆様方も、ぜひ機会をつくっていただいて長野県にお越しいただければ大歓迎をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上でございます。ありがとうございます。（拍手）

#### ○李始鍾忠清北道知事（会長）

長野県の阿部守一知事、非常に素晴らしいご発表ありがとうございました。標高3,000メートル級の山々が非常に多いと、21でしたでしょうか、21あるということだったんですけども、1つお借りしたいと考えております。1年後は返却いたしますので、幾つかお借りしたいと思っております。非常に素晴らしいご発表ありがとうございました。

続きまして、韓国から李洛淵全羅南道知事のご発言をお願いしたいと思います。

#### ○李洛淵全羅南道知事（副会長）

全羅南道の知事の李洛淵です。私は、個人的に日本と大変ご縁があります。約20年ぐらいの

ご縁があるわけです。1990年2月の初めに私は東京に赴任をいたしました。それが始まりでした。25年間、韓国と日本が交流を拡大してきた、その50年の半分になる期間であります。この50年前に国交正常化がなされ、その当時1万人が往来をしていました。それが現在は500万人が往来するようになっていました。最近、中央政府の関係は余り円満ではないようです。歴史を直視できず、また、歴史を清算できない、そして外交的摩擦が繰り返行われているというのは、とても残念なことです。日韓関係の改善のために努力してきた私としては大変遺憾に思っているところです。しかし、国家の関係というのは中央政府だけのことではないと思います。地方政府がやることがあります。特に人々がやることというのがたくさんあると思います。私は、本日、人間というキーワードについて皆様方とお話をしたいと思います。

地方政府レベルにおきますと、韓国に121の自治体と日本の自治体196が姉妹縁組や友好交流協定を結んでいます。そして交流を進めています。その中には自治体の協議機構、日韓海峽沿岸県市道交流知事会議というのがあります。日本では佐賀県、福岡県、長崎県、山口県が入っています。また、韓国では、私ども全羅南道、釜山市、慶尚南道、済州道、この8個の自治体が会員となっております。去年、私ども全羅南道で会議がありました。今年の10月には佐賀県で開催される予定になっています。この8の団体で7つの分野にわたって活発な交流事業を展開しております。青少年・文化交流に集中しています。また、地方レベルにおきまして共通の悩みをテーマにして1泊2日の討論を行っています。去年の会議では、美しい景観づくりというのがテーマでございました。

私ども全羅南道は、九州の佐賀県、それから四国の高知県と友好交流関係を結んでいるところであります。佐賀県とは共通点がたくさんあります。産業面においても共通点があります。また、陶磁器の交流においてもいろんな交流があります。高知県とは、後ほど申し上げますけれども、日本の女性がつくってくれたご縁のためにいろんな交流が続いています。佐賀県とは、毎年青少年交流が行われています。高知県では、毎年開催されている日本の全国高校生漫画選手権「まんが甲子園」に韓国から参加をしている、このような交流が続いています。去年の7月に私が就任した際にも、高知県から7人送っていただきました。

先ほどお話ししたように、人との交流についてお話ししたと思います。全羅南道の木浦という市がありますけれども、ここは金大中元大統領の故郷です。そこでは忘れない日本の女性お一方がいらっしゃいます。その方は高知県出身の田内千鶴子という方です。この方は、日本の植民地時代、1938年ですけれども、韓国で育ちました。そのとき、ある縁で孤児院を運営することになりました。この孤児院を運営していた韓国の男性と結婚して一緒に孤児院を運営することになったわけです。結婚した後にしばらくして朝鮮戦争がありました。その朝鮮戦争の最中にご主人は行方不明となってしまいました。そして田内さんは日本人女性として一人で韓国の戦争孤児たちを見守り始めました。田内さんが食べさせてくれて飢え死にできなかった人たちは3,000人を超えています。この田内さんはそれほど長く生きられずに1960年に亡くなってしまいました。木浦市で歴史で初めて市民葬としてお葬式が行われました。このお葬式は、木浦市の駅前の広場で行われました。一番広いところだったんですね。ここで市民葬としてお葬式が行われまし

たけども、3万人の市民が、多くの方が駆けつけてくださいました。この当時、大手マスコミがトップ記事として、「木浦が泣いた」というトップ記事のタイトルでした。韓国政府は田内さんに勲章を上げました。そしてこの田内さんが重病になって入院されたんですけれども、最後に亡くなる前に息子さんをお話したことは、梅干しを食べたいということでした。やはり自分のふるさとと、そしてふるさとの味を忘れられないということだったわけですね。この高知県というのは高知新聞があります。ここでは「千鶴子さんを励ましましょう」というタイトルで社説が書いてあります。

このような立派な方がいらっしゃったわけです。そしてこのご縁がありまして、私ども全羅南道と高知県は友好交流都市になっています。一昨年は、この田内さん誕生百周年ということで1万人の方が訪れましてお墓参りをいたしました。このような人と人とのご縁というもの、こういったものをやはり進めていくのが自治体の価値ある外交ではないかと思います。このような草の根交流というものがしっかり根をおろしていけば、日韓の間では外交的な問題があったとしても両国がそれほど大きく揺れない、そして関係を保つことができるのではないかと思います。ですから私は、本日の皆様方にも人との交流をもっと活発にしましよとご提案をしたいと思います。

私ども全羅南道は、このように日本と多くの縁があります。毎年、大阪で開催されるお祭り、四天王寺ワッソというお祭りがありますけれども、この主人公は王仁博士と言われております。日本では王仁と言われてますね。この王仁さんは全羅南道・霊岩出身です。天童よしみさんが歌っている「珍島物語」がありますね、モーゼの奇跡と言われてますが、この海割れの珍島ですけれども、これも多くの日本人たちが訪問しています。日本に朱子学の影響を与えた姜沆（きょうこう）、カン・ハンという方の記念碑が愛媛県の大洲城にあります。この方も全羅南道の出身です。1973年、金大中拉致事件が起こった時、駐韓、後宮虎郎という方が当時大使でした。その方は金大中元大統領の故郷を訪れて海を見ながらお話しされました。この海は地中海よりも美しいというふうにおっしゃったわけです。去年の9月、東京に来まして後宮大使の息子さんに私、お会いしました。その息子さんのお母さんが、報道をされたその記事を見せてくださいました。私は大変感銘を受けました。そのお母さんが、現在の韓国の大統領がファーストレディーだったときに会ったという記事を私に見せてくださいました。

世界にはいろんな国がありますが、韓国は世界の中でも4番目に島が多い国だというふうに言われます。島の数では、1番がインドネシア、2番がフィリピン、3番目がヨーロッパのどこかで、4番目が韓国だというふうに言います。そのうちの65%が全羅南道にあります。また、海岸線がリアス式になっていまして、海岸線の長さが6,000キロメートル以上あります。地球の半径よりももっと長いわけです。後宮大使が地中海よりも美しいというふうに言ったこの海も、海岸線から見た海だったと思います。私は知事に就任して、このような多くの島をもっときれいにしたいというふうに思っております。そしてまた、内陸部には木をたくさん植えて全羅南道が一つの大きな公園のように美しくしたいという夢を持っています。そして私の施策として、ブランド施策という名にして、「行ってみたい島、それから森の中の全羅南道」をキャッチフレーズにして、今、政策を行っています。もちろん時間もたくさんかかるとは思いますけど、ぜひ一

度いらっしゃってください。そして島と森を訪れていただきたいというふうに思います。

本日、私は会議が終わると、明日、愛媛県に行って大洲城のカン・ハン先生、姜沆先生の遺跡地に行きたいというふうに思っています。村上恒夫という方がいらっしゃるのですが、その人が市役所の公務員をしていて、姜沆、カン・ハンのこの資料を発見して、そしてカン・ハンの研究家になりました。現在は80歳を超えた方ですが、私を息子のようにかわいがってくださっています。それで、ぜひ一度お会いしたいというふうに思っています。また、明後日は香川県の直島に行って、私どもはちょっと難しいかもしれませんが、島をどれほどきれいにしているのかということ視察してきたいというふうに思っています。このように人々が往来し人の心を理解していけば、外交的な摩擦が幾らあったとしても、その関係は揺るがないというふうに私は深く考えております。自治体の責任を持っている市道知事の人たちが人間の交流、人の心の交流というのを重要に思い、そしてともに努力することをご提案申し上げたいと思います。ありがとうございました。

#### ○山田啓二京都府知事（会長）

全羅南道知事、ありがとうございました。まさしく観光という言葉は、光を見る、すなわちお互いのすばらしいところをしっかりと讃え合ってその中で新しい関係を築いていくことを意味しており、今までの両国の人と人との交流の実績というものの上に、さらにこれからこの会議を通じて新しい日韓の交流を積み重ねていきたいと私も感じた次第です。どうもありがとうございました。

次に、日本側から奈良県知事にご発言をお願いいたします。

#### ○荒井正吾奈良県知事

ありがとうございます。今、ご紹介を受けました奈良県知事の荒井正吾です。関係者の皆様方がご尽力いただいたことについて感謝を申し上げます。今回のご訪問が日本と韓国のきずなを厚くすることを望んでおります。

最初に、奈良県と関係の深い忠清南道の元知事で、個人的にも親しくしていただいております李完九さんが、次期総理大臣に指名されたという話を聞きまして、大変喜んでおります。地方間の交流に大変熱心でおられましたし、かつての百済地域のご出身でございますが、歴史についての造詣の深い方でございます。今後の日韓関係の平和的な発展に必ず寄与されるお方だと思っております。本日は、韓半島と奈良との交流について意義があると思っておりますところをご紹介したいと思います。

奈良県から見ますと、日本は韓半島との交流で古代を近代化したと、古代の近代化は韓半島との交流で行われたと思っております。そのような証拠に、今、スライドに映っております右の上の七支刀でございますが、これは西暦372年に百済と倭国の同盟を記念して百済王から倭王に贈っていただきました。日本人が持って帰ったものではございません。銘文の中に百済王が日本の倭王に送るためにつくったと書いていただきましたので、送っていただいたと、それほど交流

関係が深かったと思っております。大古事記展には、天皇皇后両陛下に行幸啓いただきましたが、このような展示をいたしまして昔の歴史を思い出しました。

また、次のスライドで簡単に書いてございますが、日本に来た文化は韓半島から、また、韓半島を通じて到来したものがほとんどというか、多くございます。当時は韓半島は日本にとってとても及ばない先進国でございました。日本におられた文化人は韓半島、とりわけ百済の人が多かったわけでございます。パスポートも要らない時代でございましたし、同胞として高貴な人として扱われていたわけでございます。そのような例が次のスライドになりますが、行基という人でございます。近鉄奈良駅前にある銅像でございますが、これは東大寺をつくった百済系渡来人の方でございます。大変な文化人でございますが、余りにも日本人の中で親しく思われているので日本人だと思っている人がほとんどでございますが、韓半島の2世でございます。このような関係で韓半島から、とりわけ百済から来られた方は多く、平城遷都1300年祭で天皇陛下がご挨拶の中で、奈良から京都に遷都された桓武天皇のご生母は百済の武寧王の末裔であるということをおっしゃり、続日本紀に書いてあるということをご紹介されました。

次のスライドでございますが、これは奈良県中宮寺にある菩薩半跏像です。これは韓国の人にもなじみが深いといいますか、韓国国立中央博物館にも弥勒菩薩像がございます。両者はよく似ており、韓国と日本の深い関係がわかる像でございます。また、右のほうの瓦でございますが、当時は日本で瓦は製造できませんでしたので、韓半島の工人が来てつくったものでございますが、その後、日本でも瓦をつくるようになったものでございます。

韓半島との交流の中で日本での拠点になったのは「あすか」という場所でございますが、「あすか」は日本語では「明日香」という字と「飛鳥」という2つの字を書きますが、どうして「飛鳥」を「あすか」と読むのだろうかということを不思議に思っておりましたが、最近、韓国の文化人の方が韓国語の「ナルセ」という字を当てると、両方読めるんだということをおっしゃっていただきました。「ナルダ」は「飛ぶ」ということでございますが、「ナル」は「日」ということで「鳥」は「セ」、「明ける」は「セダ」ということで「日が明けるナルセ」と「飛ぶ鳥のナルセ」は同音ですと、ハングルを知っていると「飛ぶ鳥」と「明日香」は同じように読めますと、これは李御寧先生の説でございます。最近、日本の中で「飛鳥」と「明日香」の読みはこのように読むとわかりやすいということを方々で言っておりますので、地名の由来ということでご紹介をさせていただきました。ハングルの解説をして大変恐縮でございましたが、奈良のゆかりの地名でございますので、お許してください。

そのようなゆかりの地の観光交流でございますが、歴史だけを勉強しに来ても、やはり観光はつまらない。おいしいものも食べなきゃいけない、いい景色も見なきゃいけないということで、交流のプロモーションをしております。現在1年間で8万人の観光客に来ていただいております。また、次の写真になりますが、日本で第1回日韓地方観光交流サミットの最初の会を奈良で開いていただきました。このような会がありますと、我々が知らない、地方の都市の方が来られて、いろんな地方の文化をこのような交流会でご紹介をいただきます。近所でございますので、ソウルばかり行かない、東京ばかり行かないように、地方の都市にもそれぞれゆかり、あるいは味わ

いを求めて行き来ができるようにというふうに思います。李完九元知事、次期総理は、百済は残念ながらロストワールドだと、奈良に行くとき昔の百済があるとおっしゃっていただいております。奈良は保存力がいいわけでございます。あつという間に千年ぐらい保存いたしますので、中国の方には、奈良に預けておいてくだされば、千年はただで預かりますよというふうに言っております。このような機会でも文化、歴史を思い出して、未来の交流につなげることができたらと思う次第でございます。ご清聴ありがとうございました。

#### ○李始鍾忠清北道知事（会長）

奈良県の荒井知事さんのほうから承りました。韓国の歴史について、私どもよりももっとよくご存じのようですね。今度、一度、私どもが奈良県知事から韓国の歴史の特講をしてもらわなくてははいけないようですね。一度ご招待しなくてははいけませんね。

それでは、続きまして、済州特別自治道知事、元喜龍知事のほうからお願いします。

#### ○元喜龍済州特別自治道知事

皆さん、こんにちは、済州特別自治道知事の元喜龍です。ほかの知事の方々と同じように、昨年7月に新しく就任をしました。今年、日韓市道知事が集まるこの協議会、この会議を再び開催するかどうかというテーマが私ども協議会のテーマになっているのを見て複雑な気持ちになりました。簡単に申し上げますと、私は、日韓市道知事のこの会議は二度と中断することなく継続していくべきだと考えております。今年の日韓国交正常化50周年に当たる節目の年です。日韓政府の間では国交正常化以降、最悪の関係かどうかということで話が出ているぐらい、今、日韓両国の関係は憂慮すべき厳しい状況にあります。しかしながら、どんな困難があっても韓国と日本はお互いを必要とする関係、また、未来に向けて、また、この地域においてお互いの共存共栄のためにお互いを必要とする関係にあります。たとえ時間がかかっても、また、さまざまな困難があっても信頼関係を回復すべきだと考えております。両国中央政府の間で厳しいものがあるのであれば、地方政府が先に動く必要があると思います。日本は韓国が嫌い、韓国は日本が嫌いという状況になれば、両国の指導者が積極的に動いて信頼回復に乗り出すべきだと思います。そのような意味で、7年ぶりにこの日韓知事会議が再開されましたことは、具体的な成果があるかどうかとは関係なく、再び開催されたということで非常に重要な意味があると考えております。この会議をきっかけとして、これからも地方レベルでより積極的な交流を行い、さらに、中央政府においても関係改善が行われる、そういったきっかけになることを願っております。

私は、本日、済州特別自治道の今後の発展戦略について、主な戦略に絞って申し上げたいと思います。

皆さんご存じのように、済州島は韓半島の一番南のほうにあります。また、日本と中国の中央にある、そういった立地を持っています。また、ユネスコが認めた世界自然遺産にもなっている美しい島であります。昔、日本からの観光客が多く済州島を訪れてくださったんですけども、最近では日韓関係が冷え込んでいるせいか、その間に中国からの観光客の数がより多くなりまして、

その数はふえ続けております。日本の国民の皆様をお願いしたいのは、濟州を愛する北東アジアの観光客の間でも皆さんがバランスをぜひとっていただきたいと。中国からの観光客を阻止するわけにはいきませんので、そのバランスをとるためにも日本からどんどん来ていただきたいということです。これからもっと積極的な交流を行っていきたいと思っております。

特に濟州は、美しい自然を保全しながら、2030年まで炭素ゼロの島を掲げています。化石燃料を使用せず100%風力などのクリーンエネルギーを使うと、また、電気自動車を初めとする新しい交通手段を導入する、家庭用、産業用、全てのエネルギーをクリーンエネルギーに切りかえるといったプロジェクトを行っております。ですので、全世界から新エネルギーの技術を持った企業または新しい電気自動車を扱っている企業、バッテリー技術を持っている企業、また、新しいライフスタイルを開拓していこうとする企業が濟州島を訪れています。皆さんご存じのように、濟州の人口は鳥取県とほぼ同じぐらい、63万となっています。しかしながら、南北に40キロメートル、東西に80キロメートルといったきれいな島になっていて、また、ビザなしでも来られる島、また、全ての制度を先導的に国においても先駆けて制度を解除できる、そういった試験的なモデルとなる島となっています。さまざまな試みができる島となっています。ですので、この濟州島を自然を生かしたクリーンなエネルギーを導入して新しいライフスタイルをつくっていく、そういった島に発展させていきたいと考えております。

このような構想を具体化するために、既に昨年、電気自動車博覧会を開催いたしました。また、毎年規模を拡大しているのですが、今年の3月にも電気自動車の博覧会を開催する予定です。また、7月には世界リーダーズ保全フォーラムを行う予定です。このフォーラムは、2012年、濟州で行われた国連の傘下にある世界自然保護会議の総会で決議された環境保護フォーラムになります。世界170の国、また、1万600人の環境専門家の決議により初めて濟州で開かれる会議となります。世界の環境のハブとして、新しい認証基準をつくるための国際会議として開かれるものです。今後、自然を守る、また、生態系を守ること、また、将来のクリーン産業について議論し合う場となります。ですので、日本の地方政府と各界のリーダーの皆様にご参加いただき、その議論に加わっていただきたいと考えております。

この世界リーダーズ保全フォーラムの延長線上で、私は、日韓地方政府の観光交流及び環境保護をより具体的に議論するためのフォーラムを新たに作ることをご提案申し上げます。そうなりますと、今後、日韓地方政府の交流、協力の課題をより具体的に、また、民間の交流の根をより深めることができる、そういった一助になるだけでなく、それをベースにして全世界の多くの指導者と一緒に交流、協力しながら問題を解決していける機会になると思っております。そのような意味で、今後、このように具体的な協力課題を議論するために頻繁に会うことが大事だと思います。特に若いリーダーに参加していただくことで、日韓両国の信頼回復、また、課題の解決につながり、両国民の心にも、雪解けをする日が来るのではないかと考えております。両国の関係改善に必ずつながると思っておりますので、今後も多くの対話と交流、ご協力をお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。



○山田啓二京都府知事（会長）

濟州特別自治道知事、大変具体的な提案をしていただきまして、ありがとうございます。濟州の美しい自然の中で、これから両国の環境、観光についての議論が展開されることを楽しみにしております。

それでは、続いて、日本側から鳥取県知事にご発言をお願いいたします。

○平井伸治鳥取県知事（副会長）

美しい自然があり、そして人情のある鳥取県にぜひ一度いらっしゃってください。今、李洛淵知事から、また、元喜龍知事からお話がありましたように、やはり我々、具体的なパートナーシップを築いていくことが大切だと思います。ぜひそんな意味で、今日の会議が出発点になればなというふうに思います。

鳥取県の若干の魅力ではありますが、先ほどアンテナショップのときにこれをお配りしておりますけれども、そちらのほうをまたご参照いただきたいと思います。1つは、漫画・アニメ、これは日本の特徴だと思いますが、鳥取県は「名探偵コナン」の作者や、それから「鬼太郎」の作者の出身地であります。「名探偵コナン」の名前をつけた空港がこの3月1日にオープンになることになりました。鳥取砂丘コナン空港というふうに名前をつけました。そしたら今、世界中で話題になっております、毎週殺人事件が起こるんじゃないかとか、いろんなことを言われておまして、我々も事件解決に動かなくてはいけないかもしれません。また、米子鬼太郎空港という空港もございまして、2つの空港は漫画の名前がついたユニークなところになります。食べ物のほうは、先ほど食べていただいたような牛だとか、それからカニだとか梨だとかマグロだとか、そうしたいろんなものがございます。温泉もございます。韓国からお客さんが来られますし、こちらもお出かけしていきます。

先ほど濟州のお話がありました。美しい自然を生かすというのは、多分韓国もそうだし、日本もそうだと思います。共通のテーマとして、こういうエコツーリズム、スポーツツーリズム、トレッキングというものを盛んにしていければというふうに思います。日本のほうにも、鳥取県のほうにも、例えば大山という山がありまして、こちらに来られるお客さんも多いです。こういうようなことで、韓国のテレビ局も取材に最近来られるようになりました。C&Mのキム・ジョンミンさんという大変に美しい女性がお見えになりました。また、チョンジェンエ・ヨシン、「アテナ」というドラマがございました。これのロケも実は鳥取県で行われております。そのときにチョン・ウソンさんとイ・ジアさんがスエさんと一緒に出ておられたわけでございますが、これが我々のところで撮影するときに、ホテルでスタッフが夜はチョン・ウソンの部屋には近づくなと言われてました。その後、いろんな不倫疑惑が起り、韓国でスキャンダルとして報道されたわけでありまして、その場所が実は鳥取県のホテルだったりしております。余計なことでございました。

ワールドトレイルズカンファレンスをこのたび濟州から旗をもらいまして、今年はアジアのトレイルズカンファレンスがありますし、来年はワールドトレイルズを行うということになります。

もしよろしければ、元喜龍知事さんにもお越しをいただいて、これから共同でこういうことを展開していければと思います。また、今日は発言できない山田会長にかわりましてでございますが、山陰海岸ジオパークという京都から鳥取県にまたがるジオパークがございまして、今年の9月15日から20日まで、アジア・太平洋ジオパークネットワークのシンポジウムが開催をされます。このような自然だとかスポーツだとか、こういうものをテーマにしてやっていくのは、美しい自然が残っている韓国や日本には特に共通のテーマとして開けるのではないかと思います。

また、変わったことでは、姉妹交流先の江原道と鳥取県で共同しまして、東南アジアの旅行ツアーを呼び込もうと、両方で例えばタイにプロモーションに行きまして、地中海とか、あるいはヨーロッパのことを考えていただければこの距離は近いんですね、ですから回ってもらいながら周遊してもらおう。ヨーロッパだとかアメリカだとか、あるいは東南アジアも含めてこういうようなツアー開発を共同でやるのも一つの考え方ではないかなと思っております。私たちは江原道と協定を結びました。

それから、これは先般、東京で開かれた日韓観光交流拡大シンポジウムであります。もっともっと往来をふやそうという合意が韓国の観光当局と日本の観光当局との間で話し合われたところでございます。また、平昌オリンピックがよいよ開かれることとなります。さらに、東京オリンピックが東京で開かれることとなります。これからは韓国と日本の年になってくるわけです。このときに世界中のスポーツの目、それから観光の目を呼び起こすべきです。オリンピックの直前になりますと大変に外国の観光客がふえるという傾向がございまして、そういう意味で我々は手をつないで我々のゾーンに引き込んでくることを考えてはどうかと思います。「カカウソクモンチョクボダナッタ」、遠い親戚よりも近くの他人という、これ不思議なことに韓国も日本も同じようなことわざがございまして、この原点に立ち返ることだと思います。カムサトゥリムニダ。

#### ○山田啓二京都府知事（会長）

続きまして、日本側の発言が続いて恐縮ですが、埼玉県岩崎副知事からご発言をお願いいたします。

#### ○岩崎康夫埼玉県副知事

大韓民国全国市道知事協議会の皆様、ようこそおいでくださいました。埼玉県副知事の岩崎と申します。本日は、上田清司埼玉県知事の出席がございません。代理で出席をさせていただきます。よろしく願いをいたします。

まず、埼玉県の概要でございますけれども、埼玉県は首都東京の北側に隣接をしておりまして、人口が724万人、県内総生産が約20兆円というところでございます。特に交通につきましては、南北に4本、それから東西方向に2本の高速道路がございまして、鉄道網につきましては、東北、上越、山形、秋田、長野、5つの新幹線と、それを初めとした24の鉄道の路線が整備されております。

それでは、地域観光交流につきまして発言をさせていただきたいと思っております。

まず、埼玉県観光資源等についてでございます。埼玉県には、都心から身近なところに、歴史、自然、アニメ、グルメなど多彩な観光資源がございます。歴史ある町並みの続きます川越には年間630万人、川下りで有名な豊かな自然がある長瀨には230万人の観光客が訪れております。県都さいたま市には、企業博物館で人気1位となりました鉄道博物館、年間290万人が訪れるさいたまスーパーアリーナ、外国人にも人気の高い盆栽美術館等がございます。2017年には世界盆栽大会が開催されることになっております。それからアニメで世界的に有名になりました「クレヨンしんちゃん」でございますが、31カ国にテレビ放映されておまして、これも埼玉県の春日部市が舞台になっております。それから深谷本庄の絹遺産関連施設、先日、ユネスコ無形文化遺産に登録されました細川紙の手すき和紙技術など、埼玉県には新たな観光資源も次々に生まれているところでございます。

次に、訪日される外国人観光客についてでございます。近年、日本を訪れる外国人観光客の増加が著しくなっております。日本政府は、訪日外国人観光客数の目標を2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに2,000万人、2030年までに3,000万人としております。2014年の訪日外国人観光客数は12月22日に1,300万人を達成したところでございます。国別実績では観光は台湾に次いで第2位、約275万人で全体の2割ということになっております。

次に、韓国の方々を対象とした取り組みでございます。2011年に群馬県、新潟県と連携をいたしまして、韓国の女性向け雑誌、「女性中央」という雑誌がございますが、そこに長瀨の川下りや鉄道博物館などの観光情報を掲載をさせていただきましてPRを行ったところでございます。昨年度は韓国のメディアやブロガーを招請するモニターツアーを2回実施いたしておまして、モニターツアーの参加者には韓国国内のテレビ、旅行雑誌、ブログなどで埼玉県の観光地をPRしていただきました。今年度から、韓国の旅行会社の東京支店に職員が直接出向きまして、韓国の方々向けのツアーのコースに埼玉県の観光スポットを組み入れていただくよう売り込みを行っているところでございます。その結果、昨年6月から埼玉県の代表的な観光地であります川越や鉄道博物館などを組み込んだ韓国人の方々向けのツアーを販売していただき、12月までに約800人の方に埼玉県にお越しをいただきました。また、昨年12月には韓国の旅行会社からの依頼で、韓国の消防士の方30人が埼玉県の消防学校あるいは危機管理防災センターのご視察をいただき、また、川越の観光ということで本県を訪れていただきました。さらに、埼玉県では2013年度からアジアからの修学旅行の誘致に取り組んでおまして、韓国につきましては、昨年度、教育関係者5名の方を招請し、韓国からの教育旅行の実施を呼びかけているところでございます。今後、さらに積極的に教育旅行の誘致に取り組んでいきたいというふうに考えております。

それから、今後の取り組みでございますけれども、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、埼玉県におきましてもサッカー、ゴルフ、射撃の3つの競技が行われる予定でございます。これに向けまして埼玉県でも多くの外国人観光客にお越しいただくため、多言語対応や

無料公衆無線LAN、Wi-Fi環境整備など、受け入れ体制の整備を行っているところでございます。また、来訪者に心のこもったおもてなしをしていただくよう、関係事業者が実践するおもてなしの取り組みを宣言をしていただいております。埼玉県の多彩な観光資源とおもてなしで、最も近い隣国の韓国から多くの方々が来県することを期待しております。ありがとうございます。

○山田啓二京都府知事（会長）

ありがとうございました。

観光と次のテーマである文化については、本当は京都府の知事である私が一番話したいのですが、残念ながら今回は議長に徹しますので、粛々と進めさせていただきたいと思っております。

それでは、地域間文化交流につきまして、日本側から島根県知事にご発言をお願いいたします。

○溝口善兵衛島根県知事

島根県知事の溝口でございます。私からは、地域文化交流、古い昔にさかのぼって少しお話を申し上げたいと思っております。

今、あそこに韓国と日本の地図が出ておりますけれども、韓国は日本にとりましても最も近い隣国でございます。島根県は、本州の西から行きますと、山口県、島根県、鳥取県といった順番で並ぶわけでありまして、山陰地方と言っております。この山陰地方と韓半島は海を隔てて本当に昔から交流があったわけございまして、その点を少し触れてみたいと思っております。

この山陰と韓半島の文化交流、古い世界に戻ってまいりますと、この映像にありますように、島根県からは大量の銅剣、銅鐸などの青銅器が出土しておりまして、国宝に指定されております。発見されたこの時代の青銅器の数でいえば、日本全体の半分ぐらい島根県から出ております。こうした青銅器文化は中国から韓半島を経まして日本に渡り、日本の中でも独自の展開を遂げたものでございます。

文化交流のことでありますが、紀元2世紀ごろという時代は日本の中では100を超える国が乱立をしておりました。そしてそれぞれの地域で統合されて小さい国ができてまいります。それが次第に大きな地域的な国になっていきますが、お隣に奈良県の知事さんがおられますけれども、奈良などが日本全体の国家となるのはその後でございます。その前の段階、ヤマト王権が成立する前の段階では、山陰では出雲を中心として王国のようなものがあつたと、こう言われるわけでございますが、その1つが、ここに出ております古墳でございます。四角い形をして隅が長く伸びておるわけでございます。四隅突出型墳丘墓というふうに言われておりますけれども、これが山陰で出てまいります古い特徴のある墳丘墓でございます。1辺が60メートルにもなるこの巨大な古墳は、その地域をまとめる王が葬られていたと考えられ、そこに一定の政治権力も形成されたと見られておるわけでございます。つまりこの時代では、山陰が独自の地域としてまとまった時代ございまして、山陰自体が韓半島の国々と交流をしていたということがいろんなことでわかってくるわけでありまして。

そこをご紹介しますと、最初は、山陰から出土します韓半島の土器、楽浪土器というものであります。紀元2世紀から3世紀にかけては韓半島におきましては北部に楽浪郡がございます。楽浪郡でつくられた土器、楽浪土器は窯で焼かれて灰色をしているという特色がありまして、そこから判明するわけですが、この土器が島根からたくさん出ております。楽浪郡は、あの地図の上のほうの青い部分ですが、そこから多分海を伝わって九州、そして山陰・島根のほうに運ばれたんだろうというふうに見られています。数の上では対馬、壱岐などと北九州の北部で多数の楽浪土器が出ておりますが、本州の中で出土するのは島根だけでございます。そういう意味で、その時代、山陰の中の島根と韓半島の交流が既に相当行われていたということがございます。

この関係を示す二番目の土器がございます。それは、勅島式土器と言われます。勅島式土器は、口の部分ですね、上の部分の形がやや短いわけですが、左は島根で発見をされた勅島式の土器であります。勅島といえますのは、韓半島南部の泗川市の勅島遺跡の周辺で発掘されたものであります。それから右のほうは、慶州南道の勅島遺跡から出てきたものでありまして、口の部分がよく似ておるわけですが、それから土の中にきらきら光る金雲母というものがありまして、そのことから島根に伝わったものは韓国の南部から来たものだということがわかるわけであります。

それがどのように日本の中で発見をされているかというのが、この図でわかるわけですが、勅島は韓半島の一番南のほうにあるわけですが、九州にもたくさんありますけれども、本州では、鳥取、島根両県のみからこの勅島式の土器が出ております。多分やはり、その当時、山陰を治めていた王がいたと言われております島根県の出雲平野に集中をしておるということでありまして、勅島式土器は人々が日常使う雑器でありまして、出雲平野に韓半島の人々が居住することによって持ち込まれたのであろうという推測がされております。

次は、山陰系の島根などでつくられた土器と思われるものが韓半島から出土しているわけです。図の左側は、島根県の出雲で出た土器でございます。右は、釜山の貝塚から出た土器でありまして、山陰系の土器だと言われております。この時代の山陰の土器は、口の部分ですね、上の部分が突出をしておるわけでありまして、その形が似ておるということからわかるわけであります。その山陰系の土器が、実は韓半島で出ているわけでありまして、同じ特徴を持つ土器が釜山市の東萊貝塚付近から出土をしておるというふうに言われております。こうしたことから、韓半島と山陰との交流は多分双方向的なものであったと推測をされております。

そういうことで、山陰と韓半島の交易が古い時代からわかるわけですが、もう一つありますのは、鉄器でございますね。上の図は鉄でできた斧であります。これは多分韓半島から山陰のほうに来たのであろうと言われておりますが、この鉄の斧は、出土の数でいいますと、近畿、奈良の近くで出土するものよりも数が出雲のほうが多いようでございます。つまり少し後の時代になりますと、奈良を中心とした近畿が大きな日本の政治の中心になっていくわけでありまして、その前の段階では山陰あるいは出雲などでも一定の政治勢力、王権があったと、そこが韓半島の方々とも交流をしていたということですが、土器とか鉄器だとか非常に高価なも

のでありましようが、韓半島からそうしたものが来ますけれども、その対価として韓半島に渡ったものは何かと、若干山陰式の土器もありますけれども、そこはまだわかってないようでございます。

ただ、出雲は全国有数の玉類ですね、そして水晶の産地でございます、玉類とか水晶とかが日本国内にも随分広がっております。そういう意味で、玉類の材料が日本の中でも出雲から各地に出ておるわけですが、そうしたものが日本各地に行き、韓国にも運ばれたんではないかというふうに思います。上の勾玉は、めのうでできた勾玉であります。下のほうは、水晶でできた勾玉とか玉でございます。私の隣におられる奈良県さんとか日本全国に玉とか勾玉っていっぱい出てくるんですね。それを分析していくと、どこからそういうものが出ていったのか、日本の国内でもいろんな動きがわかるわけでございます、島根県、奈良県など14の県が一緒になりまして連携して分析をしよう。

実は、日本では、公共事業、道路をつくるとかそうした事業は各地で行われるわけですが、そういう工事をするときには古来から伝わる遺物を掘り起こしてからやると、それでその管理は大体県がやるというようなことになっておりまして、県にそういうものが集まるわけでございます。したがって、各県の美術館、博物館にはそういうものがたくさんありますから、そういうものを分析してやろうということで、そういう会ができておるわけでございます。その会の方々も韓国からこういう技術が来ているわけですから、韓国とも調査を一緒にしたらどうかという提案もありまして、近いうちに文化の交流ということで、日本から韓国にお邪魔して意見交換や、あるいはこれからの作業を一緒にやるとかやっていきたいというふうに考えておるところであります。

以上が私の説明でありますけれども、このように、両国の関係は昔から続いておるわけでございます。最も近い隣国関係にある韓国との関係が、ますます発展していくということは日本にとって大事なことでございます。竹島など両国関係に関する問題はありますが、これはそれぞれ両国政府でお話をする話でございます、地方自治体としては、そういうことを離れまして交流をいろんなレベルで行っていきたいというふうに思っておるところでございます。繰り返しになりますけれども、海は、両国を隔てるものではなくて両国を結びつけてきたものでありますので、これからも両国関係がどんどん発展するように、こうした知事会などを通じまして努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。以上であります。

#### ○李始鍾忠清北道知事（会長）

島根県の溝口知事のお話、非常に感銘深く拝聴いたしました。

先ほど山田会長が会長として今日参加されていますので、なかなか京都の話ができないということだったですけれども、私は、議長というのをしばらく忘れて、忠清北道についてちょっとアピールをしたいと思っております。私は、今から議長ではありませんので、しばらく私の話を聞いてください。1分以内に終わらせますので。

今年9月18日から24日間、忠清北道・槐山という地域で世界有機農博覧会が開催されます。

オーガニックコリアと呼ばれる行事ですけれども、この博覧会は、ドイツにある世界有機農学会と世界有機農連盟が共同で開催するものとして第1回世界有機の博覧会を開催するんですけれども、韓国忠清北道・槐山がその第1回目の開催地に選ばれました。皆さん、こちらにいらっしゃらなかったら非常に損をしますと思いますので、ぜひ来ていただきたいと、参加しないで損をすることがないように、ぜひ来ていただきたいと思います。私の話はここで終わりにして、また、再び議長に戻りたいと思います。

続きまして、韓国側の劉正福仁川市長より発言をいただきます。韓国では非常にストロングマンと言われているんですけれども、非常に強いパワーの方ですね、発表をお願いしたいと思います。

#### ○劉正福仁川広域市長

皆さん、こんにちは、私は劉正福と申します。山田啓二会長様と日本の知事の皆様方に、まず御礼を申し上げたいと思います。日韓関係に、さまざまな希望についてお話をしてくださったことにも感謝申し上げます。多くの方々がお話をしてくださいましたけれども、本当に地方自治体から日韓関係が発展し、そして国の発展にも役立つものになるようにというふうに願っております。今、国のほうでは日韓国交正常化50周年を迎えるに当たりまして、いつになく大変重要な年になっているわけです。国交正常化は50周年になりますけれども、日韓においては伝統と文化、これは数千年の関係があるわけです。日韓の関係が改善するのは、今まで多くの方がお話しされましたけれども、両国の信頼が重要だと思います。信頼というのは、やはり真実に重きを置き、そして歴史的真相を共有するときに、この信頼が培われるものだというふうに思います。この意味でも日韓知事会議が先導的な役割をしてくれることを望んでおります。

文化交流についてお話をすることになっているんですけれども、それに先立ちまして、少し仁川についてご紹介を申し上げたいと思います。

仁川は、朝鮮半島の西側にあります人口300万の首都圏の都市です。仁川は人口が多いですし、重工業、交通など地理的、歴史的な条件によって非常に比較的優位にあります。そして持続発展可能性を持った都市だというふうに言えると思います。昨年、アジア大会が行われました。また、今年の本の首都というふうに指定されまして、行事、イベントがあります。秋にはプレジデントカップのゴルフ大会が仁川で行われることになっています。アジア最初の国連機構のGCFの事務局がつくられました。また、13の国際機構を誘致しておりますし、このような都市であります。

仁川は、特に国際的な仁川国際空港があります。平井知事のほうから遠い親戚よりも近い友人のほうがいいというふうに言われましたけれども、距離的には非常に仁川ほど近いところはないと思います。なぜならば、距離というよりも交通の便が便利だからですね。仁川から2時間以内に行ける100万人以上の都市は50個以上になります。仁川は、このような国際的な都市として飛躍、発展をしているということについて申し述べたいというふうに思います。また、今後、大韓民国の成長の動力になる、このようなエンジンを持った都市であるということをお話ししたい

と思います。知事に就任しまして、この夢を実現するのが韓国の未来を開いていくということについてお話をしています。そのような意味でも、皆様方において仁川に積極的な応援をお願いしたいというふうに思います。

日韓の地域文化交流についてお話を少ししたいと思います。

これまで日韓の文化交流というのは、1998年に韓国で日本の大衆文化が開放されました。2002年には日韓ワールドカップ共同開催が行われました。日本の映画や放送が入ってきて、韓国の「シュリ」、それから「冬のソナタ」などドラマが日本に今度輸出され、韓流ということで大きくなっています。「星から来たあなた」というのが今、日本で多くの人気があるというふうに聞いております。仁川市も1988年に北九州市と姉妹縁組を結びました。その後、神戸、横浜と姉妹、友好協力関係を結んでおります。文化講演だとか、それから青少年交流など文化交流を進めているところです。ですが、これまでの交流事例を見ますと、若い人だけ、またはある一定程度の団体に偏っていると思います。そして多くの恩恵を受ける対象が限られているというふうに思います。最近、地理的、歴史的な問題によって反韓感情、反日感情など、こういった外部の要因によって交流が断絶したり、一過性に終わってしまう、こういった交流の連続性が切れてしまうということがあるというふうに思います。

去年の7月、韓国の東アジア研究員と日本の言論NPOで日韓の国民意識調査というのを行いました。そして日韓のイメージについて聞いたところ、70%ぐらいがお互いに否定的な視点があるようでした。しかし、一方で、改善を希望し、訪問を希望するのは60%、また、交流は必要だという意見は70%以上あったわけです。ですからこのような否定的な意見を克服し、日韓の友好増進のためには新しいパラダイムと文化交流のためのこういった協力が必要だというふうに思います。そのためにも、姉妹縁組以外の都市ともさまざまな交流を拡大し、いろんな交流を発掘していくのが大事だというふうに思います。特に青少年が相手国に対する柔軟な思考ができるように、教育の機会を与えることが大事だと思います。また、連続性の維持のためにも、規制だとか財政的な面において中央政府のサポートが必要だと思います。そして観光というものを戦略産業に特化させ、多くの恩恵を与えていかなければいけないと思います。

特に私が強調したいのは、日韓の共同協力プロジェクトを発掘していくということです。私が市長になった後、仁川市の価値創造という政策を推進しています。これは仁川市が持っている歴史、産業、そして文化などについて新しいアプローチ、そして認識の変化を促してこれを再発見し、これを新たな仁川のブランド価値に高めていこうというものです。これは仁川だけではなし得るものではありません。ほかの都市との協調、そして政府の協力が必要です。そういった意味でも、日韓の地方政府がそれぞれの都市が持っている価値というものを再発見し、そして共有し、発展させる日韓の都市間の都市価値創造ネットワークというのが必要だというふうに思います。この都市価値政策ネットワークというものをつくり、これを共有し、市民の実験が実現できるような、そういった可能性を発掘していくことが大事だというふうに思います。こういった意味で、この都市価値創造ネットワークの意味でも、固有の歴史や文化、有形、無形の資産、専門家や市民の総意などを未来の価値でつくっていく、こういった共同協力プロジェクトというのを戦略と



して皆様方にご提案したいと思います。都市の遺産というものを、新たな価値でこの事例を定期的に発表していくということです。そしてこの結果を具体化するためにも、都市価値創造フォーラムというものをつくっていただければいいのではないかと思います。そうすれば、お互いの理解も深まりますし、また、さまざまな分野の交流も拡大していくのではないのでしょうか。

先ほどお話がありましたけれど、経済と、そしてさまざまなことについてお話をしてくださいました。この活性化のためには、やはり全てが大事だと思います。ただ、経済と観光というのは地域と住民の生存と利益の一時的な目的ですから、交流の量的な活性化だというふうにするならば、文化というのはお互いの理解と信頼を向上する交流の質的活性化を促すものではないのでしょうか。私がお提案申し上げた都市価値創造のために共同プロジェクトをベースとして文化交流を拡大していくならば、日韓の友好協力に寄与するのではないかと思います。また、オーダーメイド型の交流を通じてお互いの都市について利益が増進できると思います。一方だけでは余り遠くに行くことはできません。ですが、一つ一つ積み重ねていけば、多くのことをなし遂げるというふうに思います。地域間の排他的な競争よりも、協力的な競争によって日韓のしっかりとしたきずながつられていくなれば、私どもが希望していく日韓の地域間未来発展の成功に結びつけるのではないのでしょうか。

以上、私のお話を終わりたいと思います。ありがとうございました。

#### ○山田啓二京都府知事（会長）

仁川広域市長から建設的かつ具体的な提案をいただいたことに、心から感謝を申し上げたいと思っております。

それでは、ちょっと時間が迫ってまいりましたが、奈良県知事、最後の発言者としてお願い申し上げます。

#### ○荒井正吾奈良県知事

2度目の発言の機会、ありがとうございます。先ほど李始鍾議長がオーガニックコリアを韓国でされるとおっしゃいましたが、一番私が日本人にお勧めしているのは、正官庄の朝鮮人参です。あれは知事の激務に耐えるために必要なもので、その正官庄の朝鮮人参と奈良県の蜂蜜をまぜるととても元気になりますので、そのように人にお勧めしておりますが、これは李完九知事が正官庄はいいよとおっしゃって総理になられますので、総理希望の方には正官庄をお勧めしたいというふうに思うところであります。

島根県の溝口知事がおっしゃったいろんな交流の中で鉄の製造についてですが、鉄は日本で製造できなかったのが、半島を経由してのちの唐から伝わったと。唐で伝わった鉄の製造を支配した者が日本の支配者になったというように今見ておられます。それで、唐のものはその後、唐物と言って「唐」という字を当てましたが、いい舶来物、ブランド舶来物の代表名詞になったというふうにも言われております。そのような皆さんの文明をいただいた過去の歴史に敬意と感謝をもって、これからのグローバル世界に奈良としてどのような貢献ができるのかということで、

2つの取り組みをご紹介申し上げ、できればご参加を得たいというふうに思います。

1つ目は、東アジア地方政府会合でございます。

東アジアの交流の中で日本の礎ができたわけでございますが、現在、多くの国と交流しております。5回目になりますが、次の写真、ちょっと見にくいですが、韓半島のほうからは、京畿道、扶餘郡、忠清南道、全羅南道、慶尚北道などが参加していただいております。地方政府しか参加できませんので、国は参加されない会議でございます。大きな自治体、1億人の人口のある中国の省も、5,000人の小さな村も同じ席に座って共通のテーマを話すというものでございます。

次のスライドをお願いいたしますが、ここにあるような雰囲気でも議論をいたします。共通のテーマは、現在、東アジアに共通のテーマになります。少子高齢化、高齢化社会にどう対応するのかというような会議で、韓半島からはアンサン・フン・ソウル大学の先生、あるいは日本からは宮本太郎さんなどが参加して何度も社会保障の会議をして、中国も高齢化が進んでおりますので、共通のテーマで議論しております。また、地域経済の振興とか観光振興、まちづくりをテーマにして議論しております。現在、ASEANも含めて7カ国、66地方政府が参加していただいております。今年は第6回目になるわけでございますが、大阪で参加国の観光物産フェアを奈良県のスポンサーで開催したいと思っております。また、新しいご参加を考え、ご検討いただければと思います。経費は、参加者が関空までたどり着いていただきますと、あとは奈良県が宿泊、会合、飲食費をみるというものでございますので、時間さえあれば参加は、おもしろいものでございます。

2つ目の会合でございますが、その次のスライドをお願いいたします。若者交流ということでございますが、東アジア・サマースクールというものをしております。東アジア地方政府会合で提案されて、若者の交流会をしたらどうかということで、短期集中型のセミナーをしております。2011年から毎年8月に2週間ほど開催しております。講師陣は大変立派な方に来ていただきますが、言語は日本語で行っております。日本語でこの講義をうけたいという方に参加をいただいております。大変優秀な若者が参加されます。韓国の人は大変優秀でございます。現在までの4回で約165名の方が参加されまして、同窓会をつくって今ネット社会で交流をいただいております。そのような若者交流をセットするというのも新しい、わずかでございますが、感謝と貢献の道かと思っております。これもとにかく奈良まで来ていただければ、2週間の滞在費と講義の開催経費を奈良で持つという仕組みになっております。このような会合を続けると、だんだん理解が深まって、いろんな意見がおもしろく、同じ意見にならなくても大変友情が発生する。去年のサマースクールでの発表では、韓国の若者が日本の憲法は9条以降でいいと、こう発言されまして、ぎょっとしたんですけども、意味はよくわかりますので、そのようなことを平気で議論するような雰囲気でございます。今後ともまたご参加をご検討願ったらという意味で、提案、提示させていただきました。

以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

○山田啓二京都府知事（会長）

ありがとうございました。

これで予定の発言は全て終了したわけではありますが、せっかくの機会ですので、これだけはひとつ話しておきたいということが特にありましたら挙手をお願いしたいと思います。何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の議題に関する意見交換を終了したいと思います。

次に、こうしてせっかく集まりましたので、共同文書を取りまとめたいということで、その案文をつくってまいりました。現在お手元にお配りしております共同文書の案文につきまして、まず日本側から読み上げさせていただきたいと思います。

橋本事務総長、お願いいたします。

○橋本光男事務総長

それでは、読み上げます。日韓国交正常化50周年記念・第5回日韓知事会議共同発表案。日韓国交正常化50周年である2015年に東京において第5回日韓知事会議を開催した。この記念の年にふさわしく、日本側7名、大韓民国側6名、合計13名という多くの両国知事、市長が参加し、率直な意見交換を行った。日本と大韓民国は、経済、文化など多くの面で深い結びつきを持つ隣国同士である。東アジアの安定と繁栄のためにも日韓両国は親密に協力する必要がある、そのような意味で地方政府間の交流は極めて重要な意味を持つ。1999年11月9日、東京で第1回日韓知事会議が行われて以降15年が経過し、この間の日韓両国の文化交流と経済交流において地方政府間の交流はこの上なく大きな役割を果たしてきた。日韓両国の地方政府が直面する課題には、各国独自のものがある一方で、共通するものが少なくない。このような両国の地方政府間で情報交換や事業連携を図ることは、両国の地域住民にとって大きな利益をもたらすものである。今回の会議でも、地方経済交流、地方観光交流、地方文化交流の3分野において両国の地方政府間では既に幅広い交流と連携の実績があり、両国地方政府にとって有意義な結果をもたらしていること、また、今後さらにこの地方政府間の関係を深めていくことが重要であることを再確認した。ここに全国知事会並びに大韓民国市道知事協議会は、日韓国交正常化50周年に当たり地方政府間の緊密な関係強化が両国民の利益となり、新しい日韓関係の構築に役立つことを認識し、日韓国交正常化50周年記念地方自治フォーラムの大韓民国での開催を検討することとし、2017年、第16回日韓知事会議を大韓民国で開催し、一層の連携と交流の進化に向けて努力していくことを合意した。2015年1月30日。全国知事会会長、山田啓二、大韓民国全国市道知事協議会会長、李始鍾。以上です。

○李始鍾忠清北道知事（会長）

それでは、韓国側から朴成煥事務総長が共同文書の案文を読み上げます。お願いいたします。

－韓国語で共同声明文読み上げ－

○山田啓二京都府知事（会長）

ありがとうございました。

ただいま両事務総長が読み上げました共同文書の案文につきまして、特にご意見ありますでしょうか。

それでは、拍手でご了承いただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

では、ここで、李始鍾会長と私が共同文書に署名をしたいと思います。

○李始鍾忠清北海道知事（会長）

共同文書の案文につきまして、1つご意見を申し上げたいと思います。

先ほど済州道の元喜龍知事のほうから、日韓地方政府観光交流及び環境保全フォーラムを開催したいという提案がありました。また、劉正福市長のほうから、都市価値創造フォーラムを発足したいという提案がありました。この2つの案を共同文書の中に盛り込むべきかどうかについて、皆さんと検討をしたいと考えております。この共同文書の中に非常に包括的な意味でしか文言が入っていませんので、その中で解釈できることも可能かと思うのですが、それについて、まずご意見を伺いたいと思います。

2つ目、この共同文書の中に盛り込むものではないのですが、日韓国交正常化50周年の記念地方自治フォーラムを韓国で開催するのですが、自治体に一任するのですが、50年前に日韓国交正常化を結んだのが6月22日です。ですので、この自治体フォーラムを開催するのであれば、今年の6月22日を前後にして開催するのが望ましいのではないかと思います。そのような段取りで進めていきたいと思います。

韓国で開催はするのですが、皆さん、積極的に参加をしていただきたいと思います。日本の都道府県の知事の皆様、47名いらっしゃるのですが、少なくとも30名ぐらいの方々には参加していただきたいと思います。韓国には17人の知事、市長がいるので、全員参加することを保証します。ですので、日本からは少なくとも30名は来ていただきたいと思います。

そのお願いを申し上げたいのと、仁川市長と済州市長からのご意見をいかがお考えですか。各知事のほうからのご提案が全て盛り込まれれば一番いいのですが、その具体的な内容のこの共同文書の中に盛り込むかどうかは、また別途、時間が必要だと思いますので、せっかく拍手で賛同していただきましたので、とりあえずこの文書にして、今の提案に関しては、後ほど記者会見のときに、お二人の議長のほうから記者の皆様へアピールしていただきたいと思います。

○山田啓二京都府知事（会長）

李始鍾会長からお話がありました点は、大変重要な点だと思っております。ただ、1点目につきましては、私どものほうからも、奈良県知事からお話がありました東アジア地方政府会合など、さまざまな提案がなされておりますので、今日はこうした提案を踏まえて、まさにこれから一つ

一つ取り組んでいこうじゃないかという、その決意を持って共同文書を署名させていただければありがたいと思います。

それから、地方自治フォーラムにつきましても、せっかくここまで両国の知事、市長が一緒になって共同文書を練り上げたわけでありますので、できるだけ多くの知事、市長が参加できる時期と場所を選びたいと思います。と申しますのは、日本側の地方公共団体は年4回議会を行っておりまして、そのうちの重要な議会の1つが6月の終わりに開催されております。場合によっては、世宗で行われる地方自治博覧会の席で開催するとか、仁川の市長がおっしゃったようなところで開催するというようなことも含めて、もう少し事務的に詰めさせていただければありがたいと思っております。しかし、基本的には、我々は、今年こうしてみんなで韓国でまた集まって、しっかりと議論しようということはこの共同文書でまとめさせていただければありがたいと思います。

#### ○李始鍾忠清北道知事（会長）

6月22日の前後というふうに申し上げたのですが、今年全体を6月22日前後というふうに考えていただければ結構です。

#### ○山田啓二京都府知事（会長）

では、改めて共同文書の交換をいたしましょうか。

この後、一言ずつ議長が総括を申し上げることになっておりますので、私のほうから、まず申し上げます。

改めまして、本日、ご参加の日本並びに韓国の知事、市長の皆様には、大変積極的に発言をしていただきまして、ありがとうございます。私は、冒頭の挨拶で、信頼関係を築き上げなければいかなる問題も解決しないのではないかと、そして地方政府の交流、その基にある住民の交流こそがその信頼関係を築く原動力になるということを申し上げました。今回、この日韓知事会議を通じて、その具体的な交流について日韓双方から本当に積極的に発言をいただいたことを心から感謝をしたいと思いますし、まさにこの日韓知事会議は、単に確認する会議ではなくて、次の実行に移す会議になったと思っております。

世宗における地方自治博覧会や、李会長のところの世界有機農博覧会、また、済州で開催される世界リーダーズ保全フォーラム、そして日本側からも奈良県での東アジア地方政府会合や、経済関係では長野県の諏訪圏工業メッセなど、具体的な提案が出ております。我々が行わなければならないのは、この関係を単なるこの会議の関係に終わらせることなく、次の実行へと移すことではないかと思っております。そうしたことが今回確認できたことについて、改めて皆様に感謝を申し上げ、こうした信頼関係が次の2018年の平昌オリンピック、そして2020年の東京オリンピックの成功につながり、さらに、日韓関係が信頼と、そして絆の中で発展することが確認されたことを総括として申し上げたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

○李始鍾忠清北道知事（会長）

さまざまなことを、まずもってお礼を申し上げたいと思います。山田啓二会長、そして日本の都道府県の知事の方々、そして韓国からいらっしゃいました市道知事協議会の皆様方、大変有意義な時間を過ごすことができたと思います。本日、第5回日韓知事会議においてさまざまな意見が出されましたけれども、これが一つの種になって木になり茂り、そして多くの実りがあるものになるように望んでおります。そして協力の関係だけでなく、地方自治体、そして政府の協力につながるように望んでおります。両国の友情と、そして共同の繁栄のために、そして知恵を絞る、そういった時間になることを願っております。先ほど申し上げましたけれども、日本と韓国のねじれた問題、これは私どもが解決し、そして間違った問題、これは解決し、そうした凍ったものがあるならば、私たちが解かしていく、そういった役割を私たちが先頭に立って果たしていかなければいけないと思います。

最後に、この会議のためにご尽力くださいました関係者の皆様方に心から御礼を申し上げます。そしてまた、先ほど奈良県の知事の方、私はちょっと相性を見たりすることもできるんですね、奈良県と私ども、どうも相性がいいようです。ですからぜひともまたお会いしたいと思います。いずれにしましても、2017年、また皆様方にお会いできることを望んでおります。また、今年フォーラムで皆様方とお会いできることを願っております。ありがとうございました。

## Ⅱ 都内視察の概要

日 時：平成27年1月30日（木） 10：00～13：30

場 所：①環状二号線再開発 虎ノ門ヒルズ

②アンテナショップ とっとり・おかやま新橋館

視察参加者：李始鍾 全国市道知事協議会会長 忠清北道知事  
金起炫 全国市道知事協議会副会長 蔚山広域市長  
李洛淵 全国市道知事協議会副会長 全羅南道知事  
劉正福 仁川広域市長  
李春熙 世宗特別自治市長  
元喜龍 済州特別自治道知事  
朴成煥 全国市道知事協議会事務総長

### (1) 環状二号線再開発 虎ノ門ヒルズ視察

- ・再開発全体説明 土橋秀規 東京都都市整備局市街地整備部  
再開発課長
- ・虎ノ門ヒルズカンファレンスルーム説明  
瀧田文彦 森ビル(株)  
アカデミーヒルズ事業部  
フォーラムグループ業務支援担当

### (2) とっとり・おかやま新橋館視察

- ・アンテナショップ全体説明  
「日本における自治体アンテナショップの傾向」  
説明者 一般財団法人地域活性化センター参事 畠田千鶴
- ・とっとり・おかやま新橋館の概要及びその取組  
説明者 平井伸治鳥取県知事
- ・アンテナショップで地元食材による昼食

## 日韓国交正常化50周年記念

### 第5回日韓知事会議共同発表

日韓国交正常化50周年である2015年に、東京において第5回日韓知事会議を開催した。この記念の年にふさわしく、日本側7名、大韓民国側6名、合計13名という多くの両国知事・市長が参加し、率直な意見交換をおこなった。

日本と大韓民国は、経済、文化など多くの面で深い結びつきをもつ隣国同士である。東アジアの安定と繁栄のためにも、日韓両国は親密に協力する必要がある。そのような意味で、地方政府間の交流は極めて重要な意味をもつ。

1999年11月9日、東京で第1回日韓知事会議が行われて以降15年が経過し、この間の日韓両国の文化交流と経済交流において、地方政府間の交流はこの上なく大きな役割を果たしてきた。

日韓両国の地方政府が直面する課題には、各国独自のものがある一方で、共通するものも少なくない。このような両国の地方政府間で、情報交換や事業連携を図ることは、両国の地域住民にとって大きな利益をもたらすものである。

今回の会議でも「地方経済交流」、「地方観光交流」、「地方文化交流」の3分野において、両国の地方政府間では既に幅広い交流と連携の実績があり、両国地方政府にとって有意義な結果をもたらしていること、また、今後さらにこの地方政府間の関係を深めていくことが重要であることを再確認した。

さらに、全国知事会ならびに大韓民国全国市道知事協議会は、日韓国交正常化50周年にあたり、地方政府間の緊密な関係強化が両国民の利益となり、新しい日韓関係の構築に役立つことを認識し、「日韓国交正常化50周年記念地方自治フォーラム」の大韓民国での開催を検討することとし、2017年、第6回日韓知事会議を大韓民国で開催し、一層の連携と交流の深化に向けて努力していくことを合意した。

2015年1月30日

全国知事会  
会長 山田 啓二

大韓民国全国市道知事協議会  
会長 李 始 鐘

山田 啓二

이시종



## 全国市道知事協議会訪日代表团

1月29日(木)

□世宗特別自治市長、全羅南道知事

11時05分 羽田着 (KE2707便)

12時30分 ホテル・ニューオータニ着

□蔚山広域市長

11時35分 成田着 (KE715便)

13時30分 ホテル・ニューオータニ着

18時30分全国市道知事協議会訪日代表团

大韓民国大使館にて大使主催夕食会

□済州特別自治道知事

21時45分 羽田着 (KE2711便)

1月30日(金)

10時 都内視察 (環状二号線再開発事業・虎ノ門ヒルズ)

11時 都内視察 (とっとり・おかやま新橋館)

13時 都道府県会館内視察

14時 第5回日韓知事会議 (同時通訳)

・開会のち両国会長挨拶

・テーマ毎に討議

(地域間経済交流)

日本側：長野県、鳥取県、東京都

韓国側：蔚山広域市、世宗特別自治市

(地域間観光交流)

日本側：鳥取県、埼玉県、長野県、奈良県

韓国側：全羅南道、済州特別自治道

(地域間文化交流)

日本側：埼玉県、島根県、奈良県

韓国側：仁川広域市

- ・共同文書取りまとめ（両国会長署名）

- ・閉会

16時30分 記念撮影 場所：都道府県会館3階アトリウム

16時45分 両国会長による記者会見

18時 第5回日韓知事会歓迎レセプション開会

- ・開会（両国会長挨拶）

- ・来賓挨拶（二之湯総務副大臣）

- ・乾杯（全羅南道知事）

- ・記念品交換

20時 閉会

1月31日（土）

8時25分 済州特別自治道知事帰国

12時25分 仁川広城市長帰国

16時20分 忠清北道知事帰国

19時30分 蔚山広城市長帰国

全羅南道知事（愛媛県松山市）、世宗特別自治市長（大阪府大阪市）を訪問